

“The World is a book, and those who do not travel read only a page. * by Saint Augustine quotes (世界は一冊の本である。旅をしない人とは1ページだけ読んでやめてしまう人たちだ。)” このとある一節、言い換えれば本は旅人たちの前に無限大に広がる大海原ということだろうか。そのとおり、本は私たちを旅するような気持ちにさせてくれる。そしてその本自身も、最近では世界中を経巡っているということをご存知だろうか。読み終えた本や要らなくなった本が単に古本として利用されるのはもう昔のこと。それらの本を世界中に旅立たせ、新しい出会いや感動を作り出す——そんな本の新しい再利用方法が広まりつつある。

現在 130 カ国以上約 73 万人の人が参加する BookCrossing。“本に旅させよう”というこの活動は、読み終わった本や要らなくなった本をネット上で登録し、誰かに渡したり、カフェやベンチに置いてきたりすることから始まる。本を手にした人は、本を手放した人が貼りつけた BCID 番号 (BookCrossing ID) をウェブサイトを検索するとその本の旅の記録をたどることができ、本を読んだ後は自分自身も現在位置や感想を報告し、再びどこかへ忘れてくる。読まれた後本棚で眠り続けるのではなく、そんなふう旅を続ける本が世界で 520 万冊 (2008 年 12 月 19 日現在) を超えるという。もともとは米国の Ron Hornbaker 氏とカオリ夫人が、拾った人が写真を撮るという‘旅する使い捨てカメラ’の話をきっかけに思いつき、始まった Book Crossing。現在ではアーノルド・シュワルツェネッガー・米カリフォルニア知事も参加することで知られ、日本では 2007 年に日本語版サイトが開設された。イギリスでリリースされた本が 3 年をかけて韓国を経て東京にたどり着いたり、日本でリリースされた本が旅行者の手によって海外へ渡るなどその活動は国境を越えたものとなっている。

BookCrossing へは誰でも参加することができ、費用もかからない。Book Crossing のサイトで会員登録を行う必要があるが、あとは至って簡単だ。まずは本のタイトルや著者などの情報とともに、感想や評価を入力し本を登録する。その際発行された BCID 番号の書かれた専用ラベルを本に貼れば本を旅立たせる準備は完了だ。直接知人や友人にその本を手渡してもよいし、わざとどこかへ忘れてきても良い。またブッククロッシング・ゾーンと呼ばれる登録された本たちが集まる置き場においてくることも出来る。お店やオフィス、または公共施設などに、企業や個人など誰でも設けることの出来るこのブッククロッシング・ゾーン。申請すれば公式ブッククロッシング・ゾーンとして登録され、次の旅立ちを待つ本たちの途中駅となるだけでなく、人々が本を通じて出会い交流するきっかけとなることもしばしば。カフェやバーの一角に設置されるケースが多く、本拠地アメリカではブッククロッシング・ゾーンを併設したスターボックスもあるという。また BookCrossing の

本を交換する交換会も開催されており、そこでも本と人の交流が行われている。

「予期しないときに予期しない場所で旅する本と人が偶然に出会い、今まで知らなかった本の面白さを知ることが出来る」と話すのは、ブッククロッシング・ジャパンの広報を担当する藤岡さん。インターネットを通じて本を拾った場所や感想を書き込み、そこから人と人がつながりあうことが出来るのも大きな楽しみの一つだという。

読まなくなった本や要らなくなった本が、偶然という名のもと人々に新しい世界とワクワクするような楽しみを運んでくる。そして時には人との素敵な出会いやつながりをももたらしてくれる。——これ以上の素敵なリサイクルの形はないかもしれない。

Bookcrossing.jp (Japanese Only) <http://bookcrossing.jp/>

Bookcrossing.com (English) <http://bookcrossing.com/>